

# 小水力の売電で水道を維持

【富山】富山県朝日町で小水力発電で得た収入を使って水道インフラを更新する事業が始まる。人口約250人の

笹川地区に深松組（仙台市）が発電所を設けて売電し、約3億円かかる簡易水道の更新費用を賄う。過疎に悩む地域が地元の資源を生かして持続性を高める。他の地域の参考にもなりそうだ。

深松組は創業者が同町にルーツを持つ。出力が最大で1

96キロワットの発電所で作った電力を北陸電力に売る。約400世帯分の電力を作れるという。2023年に発電を始め

る予定で、信託方式を採用し、発電所の管理・運営はすみれ地域信託（岐阜県高山市）が担う。朝日町は水道設備の更新費用を一部補助する。

笹川地区の簡易水道は前回の大規模改修から約40年がたつ。最近は1年間に7回水道管が破損したことがあったと

いう。人口減少も進み、どう水道インフラを維持するかが課題だった。

深松努社長は信託方式を採用した理由について「万が一、我が社が倒産することがあっても、持続できるようにしたかった」と話した。

小水力発電は地域の河川や上下水道などで発電する。地方自治体で導入が進む。富山県では約50カ所で小水力発電が稼働している。